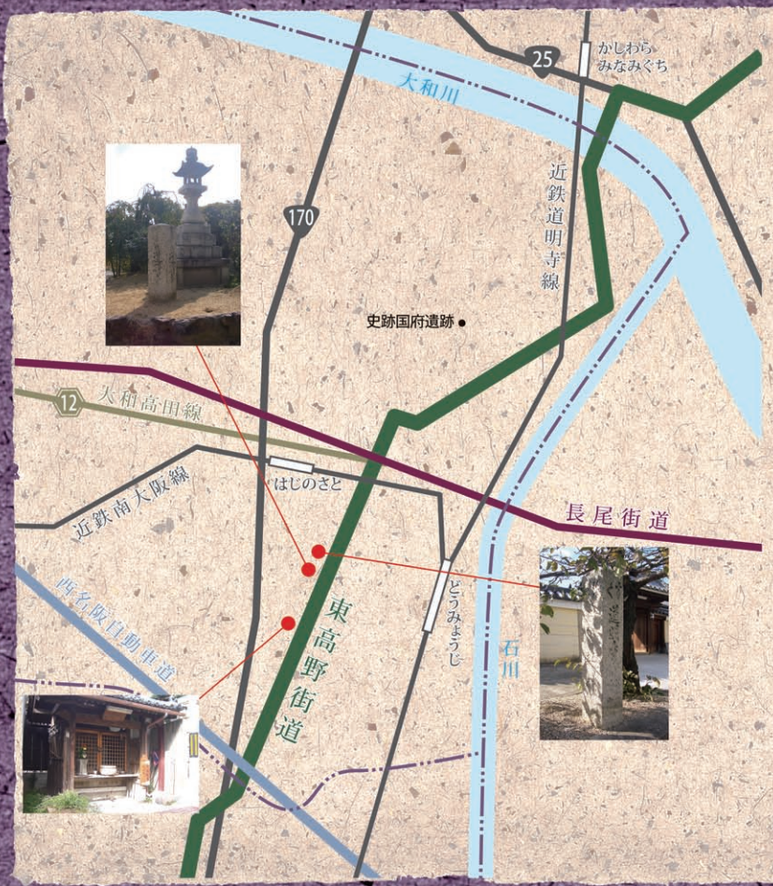
市内の古道

東高野街道

東高野街道は、石清水八幡宮から洞ケ峠を通り、生駒山西麓を直線的に南下し河内長野で西高野街道に合流します。

その道筋は古代の南海道を踏襲していると言われ、総延長が約五十㎞にもおよぶ大阪府下最長の街道です。

藤井寺市内では、道明寺周辺の道筋が旧状をよくとどめ、散策におすすめです。



長尾街道

長尾街道は、堺市から柏原市を経て奈良県當麻へ至る街道で、江戸時代には和泉、河内、大和を結ぶ重要な街道でした。藤井寺市小山から岡付近の景観は、往時の面影を今に伝えています。

また、その道筋は、日本書紀の壬申の乱の記述にみられる「大津道」と推定されています。

井真成

藤井寺市公式キャラクター
まなりくん

『姓は井、字は真成、国は日本、唐に派遣され勉学に努め、開元二十二年（西暦七百三十四年）正月、三十六歳で亡くなった』と記された墓誌が、平成十六年中国西安市（唐の都であった長安）で発見され、遣唐使の実態を探る貴重な史料となりました。この墓誌から井真成は阿倍仲麻呂らと共に十九歳で渡唐した遣唐留学生であることがわかりました。後にこの墓誌が井真成の故郷とされる藤井寺でも展示され、魂の里帰りが実現しました。以後、井真成は藤井寺市の新たなシンボルとなり、偉大なる故郷の先人として、まちの活性化に寄与しています。

現在、中国より藤井寺市に寄贈された墓誌のレプリカが、アイセルシュラホールに展示されています。

修羅

大阪府教育委員会提供

昭和五十三年に三ツ塚古墳の周濠底から見つかりました。見つかったのは大小二基の修羅とテコ棒一本です。

修羅という名は、インド神話に登場する阿修羅に由来します。阿修羅の激しい攻撃によって、何人も動かすことができないと考えられていた帝釈天を動揺させたという故事にちなんで、大石（たいしゃく）を動かす木ぞりのことを修羅と呼ぶようになりました。

現在、小修羅は藤井寺市立図書館、大修羅とテコ棒は大阪府立近つ飛鳥博物館に展示されており、平成十八年には国の重要文化財に指定されました。

道明寺糒

その起源は、菅原道真公が大宰府へ左遷された際、道明寺（土師寺）の住職であった道真公の伯母、覚寿尼が毎日九州に向かってご飯をお供えしました。それを下げて人々に分かち与えたところ、これを食べると病気が治るという評判がたち、希望者が多くなったため、あらかじめ乾燥貯蔵するようになったのが糒のはじまりです。

その製法は糯米（もちごめ）を二日間水に漬けたのち、蒸して屋内で十日程乾燥させ、さらに二十日程天日で干して石臼にかけます。

豊臣秀吉に毎年献上され、和紙袋の表の「ほしいひ」は豊臣秀吉の文字です。

江戸時代には宮中や将軍家にも献納し、諸侯の求めに応じ少しずつ分けていたが、明治以降は民間にも販売するようになりました。

以前は登山や兵糧の際の保存食とし、現在では和菓子の材料として用いられています。

小山うちわ

小山団扇の由来は、戦国時代に武田家の軍師山本勘助が三好氏の動きを探るため、小山に潜伏していたときに隠れ蓑のなりわいとして団扇を製造・販売していたことから始まったと伝えられています。後に、一子相伝の秘法として代々継承され、徳川将軍家や天皇へ献上されるまでになり、その名誉がたたえられました。しかし、その後の後継者が昭和四十五年に亡くなり、小山団扇の名声も途絶えることとなりました。現在では、藤井寺市商工会においてうちわ教室の開催などを通じて小山団扇の復活に取り組んでおります。

国宝・重要文化財一覧

国宝

- 乾漆千手観音坐像（葛井寺）
- 木造十一面観音立像（道明寺）
- 伝菅公遺品（道明寺天満宮）

重要文化財

- 伝菅原道真作木造十一面観音立像（道明寺）
- 木造聖徳太子立像（道明寺）
- 笹散蒔絵鏡匣・笹散双雀鏡（道明寺天満宮）
- 葛井寺四脚門（葛井寺）
- 城山古墳出土埴輪水鳥（アイセル シュラ ホール）